様式３

会　　議　　録

<table>
<tr><td colspan="2">会議名
（審議会等名）</td><td colspan="3">令和５年度第１回相模原市食育推進委員会</td></tr>
<tr><td colspan="2">事務局
（担当課）</td><td colspan="3">健康福祉局保健衛生部健康増進課　内線（５６２２）</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催日時</td><td colspan="3">令和５年５月２日（火）午後３時３０分～５時３０分</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催場所</td><td colspan="3">ウェルネスさがみはらＡ館３階　集団指導室</td></tr>
<tr><td rowspan="3">出席者</td><td>委　員</td><td colspan="3">１５人（別紙のとおり）</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="3">２人（農政課長、学校教育課長代理）</td></tr>
<tr><td>事務局</td><td colspan="3">８人（保健衛生部長、保健衛生部参事、健康増進課長、他５人）</td></tr>
<tr><td colspan="2">公開の可否</td><td>■可　　□不可　　□一部不可</td><td>傍聴者数</td><td>０人</td></tr>
<tr><td colspan="2">公開不可・一部不可の場合は、その理由</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">議　題</td><td colspan="3">１　開会
委員交代について（委嘱状の交付）
２　事案説明
（１）　次期相模原市保健医療計画に盛り込む食育分野の施策について
（２）その他
３　閉会</td></tr>
</table>

議　事　の　要　旨

主な内容は次のとおり。

1　開会

委員交代について（委嘱状の交付）

（以下、堤会長による進行）

本委員会の公開について委員の承認を得た後、出席者が定足数に達していることを確認し、議題が進行された。

2　事案説明

（1）　次期相模原市保健医療計画に盛り込む食育分野の施策について

事務局より、当日資料及び資料１、２に沿って次期相模原市保健医療計画に盛り込む食育分野の施策について説明を行った。

【委員からの意見】

（淺倉委員）第３次食育推進計画の評価で「食育への関心がある人の割合」の達成状況が悪化となっており厳しい状況だと感じている。そもそも食育という言葉に子どもが対象というイメージを持つ方が多いと思うが、この設問「食育への関心がある人の割合」はどういった方を対象に調査しているのか、また、この質問をいきなり持ちかけたとしたらなかなか厳しいと思うが、どのような前提の中でこの質問を聞いているのかを教えていただきたい。

（事 務 局）「食育への関心がある人の割合」については、相模原市生活習慣実態調査で把握しており、成人の方を対象とした設問となっている。食育という言葉は子どもが対象というイメージが強いようで、「どういったことが食育なのか」という前提について、設問の中で十分に示せていなかったことが反省点である。食育の内容について、もう少し具体的に示せたほうが良かったが、そこが十分できていなかったこともあり、自分ごととしてとらえない方もいたのではないか。今後、「どういったことが食育なのか」ということを提示した上で調査を行いたいと考えている。

（堤 会 長）食育のこの調査対象者はどうやって選んだのか。ランダム抽出か。

（事 務 局）生活習慣実態調査では食育以外の内容も調査しており、成人の対象者は無作為抽出で回答を依頼している。一般市民は、5,000 人通知を送付し、約半数が回答した。

（堤 会 長）食育について、「どういったことが食育なのか」がわかっていないとのことだったので、次回アンケートでは、アンケート用紙にしっかり食育の前提を書くとよいのではないか。そうすれば、「食育への関心がある人の割合」の回答率も上がると同時に、その文章を読むことで回答者の食育についての認識が深まり、啓発となる。市民の方に知っていただきたいことはアンケートの中に言葉の説明として入れると、教育にもなると考えられるので、次回工夫すると良いと思う。

（今 委 員）調査対象が大人とのことだが、「【目指す姿】食を通して豊かな人間性を育む」の現

状と課題の中に、中学生から29歳以下と書いてあるが、調査対象に中学生も入っているのか。

（事 務 局）生活習慣実態調査は、一般市民調査及び幼児・小学生・中学生・高校生の調査があるが、今回の「食育への関心」については、成人を対象に調査した。幼児・小学生・中学校・高校生については別の内容について調査をしている。

（今 委 員）食文化について、中学生から29歳以下が「わからない」と回答しているが、例えば小学生はもっと高かったが、中学生から29歳以下は低かったということなのか。私は給食の意味を重視しているので、中学校給食が全員喫食ではないことの影響があるのではと感じたが、この調査が小学生にも行われていて、小学生は高いが、中学生から親となる世代までが低いのであれば、そこは差が付くポイントではないかと思うが、この資料だと小学生に調査をしたかがわからないのでそのあたりはどうか。

（事 務 局）「食文化を受け継いでいるか」という設問は、中学生以上を対象に調査しており、小学生への調査は実施していない。また、生活習慣実態調査では小学生への調査は保護者の方に回答をお願いしている。中学生以上は本人が回答している。

（今 委 員）では小学生自身が、「給食から食文化を受け継いでいる」と言っているかどうかというのはわからないということで良いか。

（事 務 局）小学生調査ではこの設問がなく、また小学生調査は保護者が回答しているため、小学生本人の状況は把握できていない。

（佐藤委員）調査結果について、わからないところもあるが、食育が全世代に必要なことということで、今後他の委員の方がおっしゃっていた内容が解消できればよいと感じた。

（江藤委員）「食育とは何なのか」から、皆さんがもう少し考えなければいけないということと、私が個人的に思うのは「食を通じたコミュニケーションをとる人を増やします」というこの一言が、コミュニケーションをとる人とは誰なのかというのと、その人になりたいと思った。

（堤 会 長）コミュニケーションをとる人というのは、いろんな解釈ができるかもしれない。

（平本委員）正直なところ、うちの幼稚園ではそこまで食育を意識して保育はしていないが、最近偏食や、なかなか食べない・食べられないという子が多いので、そこに関して改善していけたらよいと思った。うちの幼稚園の給食は業者からのお弁当形式だが、食べないものは食べない。自宅からお弁当持参の日もあるが、保護者の方は好きなものしか入れてこないので、そういう状況でも食育になっているのかどうか。

（藤木委員）保育園では自園調理で０歳児の離乳食から進めており、各市内の保育園では食に対する取組について、畑を作って食に携わったり、調理体験をしたりなど一生懸命取り組んでいると聞く。子どもに向けて食育の取組をしても、保護者が若い世代であり、食に対して非常に知識が偏っているとか興味がない人も結構多く、その保護者の食の知識が子どもに影響していると感じる。園としても、保護者に「朝食はしっかり食べさせてください、理想は一汁一菜」などと伝えているが、朝は時間がない

と言ってヨーグルトやジュースみたいなもので済ますなど、大人の簡単な朝食の意識が子どもにも影響しているので、まずはその20代～40代の保護者の世代に、どうやって「バランスよく食事をとることが大事」だと伝えていくのかが大事だと思う。高血圧治療中の人が多いことも非常に驚いた。高血圧の人が多いのは塩分を取り過ぎなのかとか、外食でも好きなものばかりを食べる若い人もよく見るし、やはり健康に保つにはバランスよく何でも食べるという意識の向上がどうしたら図れるのかは、保育園でも考えているところである。それにはやはり小さいうちから食と関わることが大事なのではないか。

（堤 会 長）先生方が直接子どもに関わるだけではなく、子どもはまだ自分で食事を整えることができないので、保護者の方も巻き込んで食育を実施していく必要があると思う。

（長瀬委員）食育は生まれたときから高齢者までとても大事であり、食事と子どもの成長発達、愛着形成やアタッチメント等も見つつ進めていかないと食育がうまく行かないと感じている。食が人間にどんな影響を与えるのか、市民の方が知識を得ることも大事だし、子どもの食に関することは親子の関係性も考えつつ進めることが必要だと思っている。

（堤 会 長）今のご意見は取組の視点Ⅰ－②－２「食を楽しみ大切にする心の育みの推進」というところと、非常に深い関係があると思うので、ただ単に一緒に食べる共食とか、感謝の気持ちの育みに関して、食事に「ありがとう、ごちそうさま」と言うだけではなく、そこで心はどのように通わせるか、愛着形成まで踏み込んだ文章などが盛り込めたらより良いのではないかと思う。

（落合委員）取組の方向性１から３までどれもみんなよいことだとは思うが、「伝統的な食文化や地域の食の伝承を推進します」について、目標値が３６％ということで、現状値も評価値も低い。確かに、親と一緒に暮らしていないと、なかなか伝承できないとは思う。私たちも小さいころ、親が作る料理を好きではなかったが、この年になると、その時の料理が懐かしくあったり、昔食べたものを食べたくなったり、年齢とともにすごく興味が出てきた。相模原市農協ではベジたべーなという直売所を設けており、２階に調理室があるので、親子クッキングや男の料理教室、母ちゃん’s kitchen(キッチン)など、伝承料理を若い方たちに教える取組もしている。ほんの一部にしか過ぎないが、伝統料理がなくなってしまうのは寂しいので、何か取組を増やす働きが必要だと思うし、計画に書いてあるだけでも頭に残るので、ありがたいし大切なことだと思っている。

（堤 会 長）確かに今おせち料理も作らない家庭も増えてきて、地域の伝統的な食文化の伝承が難しくなっていると思う。そんな時に例えば、小学校の給食等で地域の伝統的な料理などを月に１回程度出しており、食文化を学ぶ機会になっているが、家庭の中での伝承が難しいのであれば、地域のオープンキッチン等の皆が使える場所で、技術や知識がある方がその地域の方と一緒に作り、それを家庭でも伝えていく活動など

を地道にやっていくことは大切であるとご意見を伺って思った。

（唐澤委員）私は取組の方向性１で「安全・安心な食生活」の目標が未達であることについて、つくい農協としても安心・安全について伝えているが、まだまだ市民に浸透していないのだと感じた。また、飲食店・給食施設等の食環境に関してはコロナ禍の影響等もあり未達になったと記載されているが、今後新型コロナが収束していく中で、どのように数値か変わっていくのか関心がある。

（堤 会 長）やはりコロナの影響はすごく大きかったと思うので、今後どうなるかも注意深く、それに合わせた施策を考えていく必要があると思う。

（西田委員）食育への関心が高まらない現状という視点で、もともとコミュニケーションの場所を提供している方や、そこに参加する方は興味があるから知識を得ようとすると思う。興味がある方や時間のある方、余裕のある方が、どんどん少なくなっている世の中なので、若い世代はＳＮＳを利用して、時短メニューや節約面、栄養バランスなど、興味がある方はそういう情報を拾っていく。逆にＳＮＳを使わない高齢者の方は知識のある方たちは別だが、文字を読まなかったり、その場所に出向くこともままならないため、食育への関心も少し低くなったり、勉強したくても知らないことが多くなっているのではないかと思うので、地域で使える公民館などの場所に、市として食育に関して話ができる方などを派遣し、食の情報を取りやすくするお手伝いができるような形があればいいなと感じる。

（堤 会 長）今は時間や興味のある方とそうでない方が二極化しているので、そこも考えていく必要がある。

（北島委員）今回の調査の結果などを見て感じたのは、余りに規模が大きく、やるべきことがたくさんだなというのがまず第一印象で、学校や幼稚園など団体等に所属している人へはアプローチがしやすいが、そうではない人へはどうするのかとか、本当にこれは絞り込んでいかなくてはいけない課題だと感じる。そのために各団体の方がいて、例えば給食を作っているところを見てもらったり、幼稚園や保育園ではお母さんにアプローチをしたり、農業関係では作っているところを見てもらったりとかに取り組んでいる。若い人たちもやせている方がいいなどばかりで、なかなかこういう食育の状況を見てもらえないとか、目標が幅広くやらなければいけないことではあるが、その結果が今出ているので、ここから重視するものをどう絞り込んでいくのかと、各その団体の中で「こういうことができる」とか、「うちはこういうことでアプローチができる」などを話して進めていくための集まりなんだというのを改めて感じて、それがうまく軌道に乗るとよいと感じた。

（堤 会 長）本当にみんながそれぞれの立場で、それぞれが一丸となっているか、専門性を発揮しながら、食育推進をすることが必要だとご意見を伺っていて感じた。

（庄井委員）私が歯科医として子どもたちに携わっていると、食べられない子が今増えており、口がうまく使えなくて、お母さんも野菜を食べさせないと、と思っていても、子ど

もたちの方が食べられないということがかなり多い。離乳食は本来、食べることや飲み込むことを学んでいく時期だが、その離乳食自体が、もうすでにお母さんがどのように食べさせたり飲ませたりするのかがわからず、うまく食べることができない子たちが今増えている。例えば保育園に行ってない地域のお母さん方に、離乳食のあげ方の普及がうまくできると、幼稚園や小学校でも、ちゃんと給食が食べられる子どもたちがより増えると思うので、そういうこともやれると良いと思う。

（堤 会 長）親御さんがその口腔機能とか咀嚼機能に合わせたものが用意できないのか、それとも食べさせ方がわからないのか、両方あるとは思うがどちらの要素が大きいのか。

（庄井委員）子どもたちの口の状態に合わせて離乳食は進めて行き、今大体、初期・中期・後期が大体生後何ヶ月と紐づけられているが、例えば、生後４ヶ月から歯が生える子と、１歳になってから初めて歯が生える子がいて、その子によって口の状態も全然違うので、そこもちゃんと見て離乳食をあげないといけないと思う。例えば、まだ固形物が食べられない子にすでにあげているとか、もう前歯がそろっているのに、まだドロドロのものを食べていることがある。前歯がそろってきても丸飲みが怖くてかじり取りを全くしていない親御さんがいたり、そういう子はうまくかじり取りができず一口大を経験することができなくて、少し大きくなった時に詰め込みや丸飲みになったりとか、あと食事のときに飲み込めないので、お茶と一緒に流し込む癖が小さいうちについてしまう等が赤ちゃんのときからすでに始まっていくので、食べることの発達からの支援をしたほうがいいと思う。

（堤 会 長）その辺が一番親御さんのつまずくところだと思うので、市の離乳食講座等だけでなく、保育所などでもそのような機会を設けて、保育所等に通っている親御さんだけではなく、地域の家庭で育てている親御さんたちにも離乳食を学ぶ機会が提供できるようにすることが、将来的にもよくかんで健康長寿に繋がっていくために大事だと思う。

（原田副会長）医療の面から言って、高血圧の治療中の方や肥満の方が多いなどの辺りが我々にとっては耳の痛い問題である。医学の世界で予防医学という考え方があって、一次予防、二次予防、三次予防がある。一次予防というのは病気にならないようにする予防、二次予防は病気になってしまったときに薬を出す、例えば高血圧の方に薬を出し食事療法をする、それから肥満の方に食事療法をする。それが二次予防。それから三次予防は、その病気を引き金にして脳卒中や心筋梗塞を起こした人に、リハビリテーションを行う。三つの予防があり、一次予防が最良の予防である。今回食育というのは医療の面から見れば、一次予防、最良の予防策に当たるものであって、ちょっと達成状況が思わしくはないが、ぜひ地道に努力して、健康寿命を延ばしていただきたい。非常に大切な活動であると、医療面から見ても思われる。

（堤 会 長）本当に一次予防が医療費や介護費用などの節約にも繋がっていって行政的にも大事だと思う。もちろん、一人ひとりのＱＯＬを上げることにも繋がり、大事だと思う

ので、一次予防の視点からも、食育推進していくと良いと思う。

（中村委員）食を通じたコミュニケーションに関して、ベジたべーなとか卵街道や養鶏場などの地場産業のお店等について、広報誌で市民の方に情報提供していると思うが、間隔がかなり空いていると感じる。もう一度、相模原市の地場産業を盛り上げるために、また広報誌の方に載せてもらえるとよい。そういう場所に通うと、お店の方と話す機会が増えるので、直接生産農家の方たちとお話ができるのは、貴重な体験だと思う。あと、バランスのよい食事については皆さん知っていると思うが、バランスよく食べることが現実的にできていないから、このような調査結果が出ているのだと思う。日本栄養士会でヘルシーダイアリーという冊子を発行しており、例えば、毎日朝・昼・夕と食べたものをチェックすると、何を取り過ぎていて、何が足りないのかというのを、俯瞰してみることができる。相模原市で独自の資料を作ると大変だが、栄養の資料をより多くの人に知ってもらうには、プロの力を借りるとよい。地場産業のお店一覧などの情報を広報誌に載せるなど、いろんな専門家の力を借りて、盛り上げていくとよいのではないかと思った。

（堤 会 長）日本栄養士会で作成したヘルシーダイアリーの活用など、専門家の力を活用することについてご意見が出たが、栄養士会として可能性はどうか。

（佐藤委員）使うのはとてもいいことだと思うが、色々なレベルの方がいるということは考えなければいけない。ヘルシーダイアリーを使って、自分の食事を記録することが良いと思って続けられる方と、自分の食事は問題ないからやらなくてもいいと思う方もいる。記録を付けるのは面倒くさいからやめてくれと言う方もいるので、いろんな状態の方に発信する場を設ける必要があるし、理解できるものを作らなければいけないことは、今後の課題であると思う。病院での栄養指導でパンフレットなどのツールを用いていても、理解度は様々である。今後もしツールを使うのであれば、様々な方に発信できるものを考えなければいけないし、既存のものを使うのもそうだが、相模原市に合ったものを考えなければいけないと私個人は思う。

（堤 会 長）本当に色々なレベルの方がいるので、ヘルシーダイアリーは大変レベルが高く、熱心な人でないと難しいかと思う。国が「妊娠前からはじめる妊産婦のための食生活指針」を出しており、妊婦さんだけではなく一般の人も活用できるものだが、この中では一汁二菜をバランスのいい食事と言っている。日本の食事は汁・ご飯・たんぱく質のおかずと、野菜のおかずが二つの一汁三菜が基本とされていたが、それはハードルが高いので、汁・ご飯・たんぱく質のおかずと野菜のおかず、の一汁二菜が整っているとバランスが取れると言っている。それでも、それができている人は20代や30代では1週間のうちで4～5日できている人は50％程度しかおらず、一汁二菜ですら整っていない場合が多い。相模原市の現状に合わせて資料を作ることも大事だが、まずは国が一汁二菜を推進しているので、細かいグラムとかメモとかは不要で、ご飯と汁と肉や魚・卵のおかずと、野菜中心のおかずがそろっているのを

目指そう等、簡単なものを今後使っていくのがよいのではないかと思う。

（平本委員）食育について今までも議論がされてきたと思うが、実際自分たちが食べているものについて生産者や事業者がどう作ったかはあまり見えないので、栄養や安全性の情報がわかりにくい部分がある。国としても食育を推進しているが、実際に我々はどう考えてどれを食べればいいのか、国がどのように食育をして欲しいのかがわかりにくいと感じている。ニュースなどでも見栄えをよくするために綺麗な野菜しか売らないとか、あと漂白剤を通してから売るなどの情報を聞くし、自分も含めて消費者は見た目がよくてやわらかくておいしいものを選びがちになっている。委員会の中には事業者の方はいないので、例えばそういう方から食べ物や給食をどういう思いで提供しているのかなどを実際に聞けたら、食育も推進するのではないかと思う。

（落合委員）相模原市農協では食の教育を実施しており、子どもたちに実際に野菜を作る時から、収穫までの経験をしてもらっている。また、今は全国的に野菜を作るときには生産履歴をつけたものでないと出荷できない。ベジたべーなでも生産履歴を作らず農薬を使ったものを出すような人は受付できない。農家の方は大変だが、今はそういう時代になっていて、食の安全については相当シビアに対応している。

（平本委員）ではそういうところも、もっとアピールしてもらうとよいと思う。

（落合委員）私どもの広報紙はあるが、それだと、一部の方だけに向けての情報発信となるので、市の広報紙などで周知をすることも必要だと思う。

（堤 会 長）大手スーパーだと野菜の横にQRコードがあって、そこをかざすと生産者の顔や農薬使用履歴が出てくるところもあるので、関心が高まってきていると思う。私たち消費者が例えば、色や形が綺麗なものとか、やわらかいものがいいと言うと、売る側はある一定程度売れるものを提供することになると思う。例えば形や大きさが揃っていない野菜を購入する、大根の皮も捨てずにきんぴらごぼうと一緒に炒めて食べるなど、無駄なく使えるので、消費者が綺麗な商品を選ぶのではなく、そのまま丸ごと美味しくいただくようになれば、売っている方もそういうものを売ればよくなる。生産者も消費者もお互いが歩み寄って賢くなって、健康な食生活が営めるような社会ができると良いと感じた。

（北島委員）相模原市が食育として目指す目標にも「安心・安全な食生活」が掲げられており、「自分が食べるものがどんなものか」はまさに目標の一つだと思う。食育はやることがたくさんあり絞り込むのが大変だが、食事は楽しさも大切なので、そのバランスをとりながら食育をしていけるとよいし、その中に安全な食の知識が増えていくと、とてもすばらしい活動になるのではないかと感じた。

（堤 会 長）本当に栄養だけではなくて、食事が美味しく楽しくということも大事なので、そこの視点は忘れないようにしたいと思う。

（今 委 員）いろんな意見を聞くと立派な計画ができるだけでは駄目で、例えば市からの情報の間隔が空くと忘れたりとか、地場産物もさがみグリーンは給食では出るが実際は売

っていないとか、スーパーなどで相模原の小麦に接することはない等、取り組んでいるに過ぎないみたいなところがある。私は以前インターネットで、ある地域ではスーパーに必ず地元の牛乳が並んでいて、牛乳といえばこれ、というのが浸透しているのを見た。こういうものがあれば、「地域の牛乳」みたいな納得感が感じられるのではないかと思った。スーパーでも地域の野菜を置いているところもあるが、今ひとつ相模原感が感じられないので、学校の給食を通して親子が繋がり、地域やスーパー・飲食店とも繋がるなど、市全体でアピールするのが大事なのではないかと感じた。計画だけではなく生活に近いところにうまく持っていけるとよいと感じる。

（堤 会 長）本当によい計画を作っても、それが実践の場で活用されなければ絵に描いた餅になってしまう。その時に、多職種がそれぞれの専門分野で関わる人たちも様々だろうから、その中で生かしていけたらこの計画が実行可能なものになり、また相模原市の食育も進んでいくのではないかと意見を伺って思った。

（唐澤委員）今の牛乳の話について、実は赤パックの農協牛乳はもともと津久井の牛乳工場が発祥の地である。そういうものが今後相模原市の中で、また新たに出てくればよいし、組合としても津久井の農畜産物のブランド化を進めていきたいと考えている。

（西田委員）気持ちは皆さんあるが、多分生産できる量は限られているので、ブランドとして全ての方に行き渡る量にはどうしても足りない。人口が多い相模原で、潤沢にそろえられるものはなかなかないと思うので、相模原ブランドや津久井ブランドが目にとまるようになれば、他の地域のようなシビックプライドになるのかなと思う。

（堤 会 長）昨年度の会議でも、給食でさがみグリーンを使った献立が出ても、スーパー等では売っていないことに関して、委員の方から市場に出るほど作っていないので難しいという話があった。需要と供給のバランスもあると思うので、地場産業をみんなに浸透させる努力はしつつも、無理のない実行可能な範囲で進めて欲しいと思う。

（事 務 局）今回計画の骨組みとツリーを説明したが、概ねこの方向でよいというご意見だと考えている。今日はこのツリーに基づいて具体的にどんな取組をするのかというところまではお示しできていないため、今後、保健医療計画全体を一旦見渡し、書きぶりやトーンなどの大きなところを調整した上で、次回の委員会では、もう少し具体な取組について、どんなことを目標を達成するためにやっていくのかお示しし、議論を深めていきたいと考えている。

（２）その他

事務局より、資料３に沿って相模原市地域保健医療審議会の新たな運営体制について説明を行った。

【委員からの意見】

相模原市地域保健医療審議会の新たな運営体制については、事務局が説明した通り今後検討を進めていくということで委員の賛同が得られた。

以　上

令和５年度　第１回相模原市食育推進委員会名簿

団体名等	氏　名	出欠
（一社）相模原市医師会	原　田　　工	出
（公社）相模原市歯科医師会	庄　井　　香	出
学識経験者（相模女子大学）	堤　　ちはる	出
学識経験者（東京家政学院大学）	田　中　　弘　之	欠
相模原市立小中学校長会	淺　倉　　勲	出
（一社）相模原市幼稚園・認定こども園協会	平　本　　大　輔	出
相模原市食生活改善推進団体わかな会	江　藤　　潤　子	出
相模原市栄養士会	佐　藤　　美登利	出
相模原市健康づくり普及員連絡会	長　瀬　　嘉　子	出
相模原市私立保育園・認定こども園園長会	藤　木　　総　宣	出
相模原市農業協同組合	落　合　　幸　男	出
神奈川つくい農業協同組合	唐　澤　　由紀生	出
相模原市立小中学校 PTA 連絡協議会	樋　口　　陽　平	欠
相模原食品衛生協会	森　　健　太　郎	欠
さがみはら消費者の会	西　田　　玲　子	出
公募委員	北　島　　みどり	出
公募委員	今　　美　和　子	出
公募委員	中　村　　道　子	出